

## 6 章 斜面对策工

### 6.1 集水井工

#### 6.1.1 集水井工（ライナープレート土留工法）

### 6.2 集排水ボーリング工

### 6.3 地すべり防止工（山腹水路工）

### 6.4 かご工（斜面对策）

## 6章 斜面对策工

### 6.1 集水井工

#### 6.1.1 集水井工(ライナープレート土留工法)

##### 1. 適用

ライナープレート土留工法による集水井の施工に適用する。

##### 2. 数量算出項目

集水井掘削、コンクリート、井戸蓋、昇降用設備等を区分ごとに算出する。

##### 3. 区分

区分は、土質、規格とする。

##### (1) 数量算出項目及び区分一覧表

(1基当り)

項目	区分	3次元 モデル	属性情報			
			土質	規格	単位	数量
集水井掘削		A	○	×	m	
コンクリート		A	×	○	m <sup>3</sup>	
井戸蓋		B	×	○	枚(基)	
昇降用設備		B	×	○	m	

3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

##### (2) 土質区分

土質による区分は、以下のとおりとする。

土質 ———— 砂・砂質土、粘性土、レキ質土  
                   └─── 岩塊・玉石混じり土、軟岩、中硬岩

##### (3) 規格区分

集水井1基ごとに区分して算出する。

##### 4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編(共通編)1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。

##### (1) 集水井掘削の土留材料の内訳は下記の項目で算出する。

(1基当り)

項目	区分	3次元 モデル	属性情報			
			土質	規格	単位	数量
ライナープレート		II	×	○	m	
補強リング		II	×	○	個	
補強材		I	×	○	t	必要な場合算出

3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする  
 補強材の3次元モデルによる数量算出方法は、鋼構造を参考とする

## 6.2 集排水ボーリング工

### 1. 適用

地表及び集水井内において、ロータリーパーカッション式ボーリングマシン（二重管方式）にて集排水ボーリング工を施工するものであり、呼び径90～135mm、削孔長80m以下、削孔角度は水平±10度以内の作業に適用する。

### 2. 数量算出項目

ボーリング、保孔管、ボーリング仮設機材、足場（地表）の数量を区分ごとに算出する。

### 3. 区分

区分は、施工場所、土質区分、呼び径、削孔長区分、保孔管種別、ストレーナ現場加工の有無、保孔管種類、製品区分とする。

#### (1) 数量算出項目及び区分一覧表

区分 項目	3次元 モデル	属性情報										
		施工場所	土質区分	呼び径	削孔長区分	保孔管種別	ストレーナ現場加工の有無	保孔管種類	製品区分	単位	数量	備考
ボーリング	B	○	○	○	○	×	×	×	×	m		
保孔管	B	○	×	×	×	○	○	○	○	m		
ボーリング 仮設機材	B	○	×	×	×	×	×	×	×	回		
足場 (地表)	B	○	×	×	×	×	×	×	×	空 m3		

3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

- 注) 1. 呼び径とは、ドリルパイプ外径 (mm) をいう。  
 2. 同一足場上の移動はボーリングに含む。  
 3. 作業足場の幅は 4.5m とする。

#### (2) 施工場所による区分

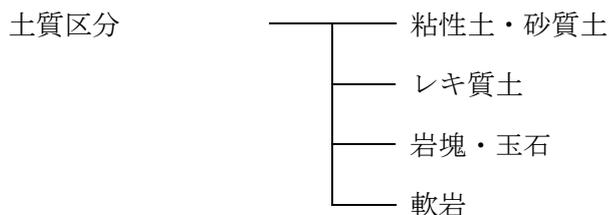
##### ①ボーリング、保孔管、ボーリング仮設機材の場合



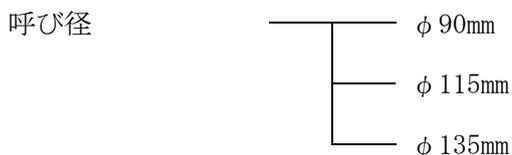
##### ②足場（地表）の場合



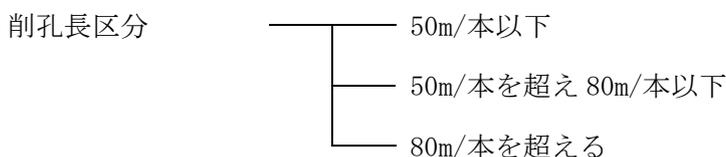
(3) 土質区分による区分



(4) 呼び径による区分



(5) 削孔長区分

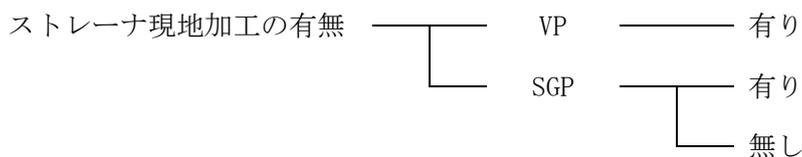


(6) 保孔管種別による区分



注) 保孔管は VP 管 (JISK6741) を標準とするが、活動中の地すべり地区で、挿入後剪断、よじれ等により保孔管破損のおそれのある場合はSGP管とする。

(7) ストレーナ現地加工の有無による区分は、以下のとおりとする。



(8) 保孔管種類による区分

管種 : VP, SGP

管径 : (VP) 40, 50, 65, 75, その他 (各種)

(SGP) 40A, 50A, 65A, 80A, 90A, その他 (各種)

(9) 製品区分による区分



#### 4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編 (共通編) 1章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。

(1) 削孔する土質が異なる場合は、土質ごとに延長を算出する。

(2) 施工場所は、施工機械の配置位置を示す。

## 6.3 地すべり防止工(山腹水路工)

### 1. 適用

地すべり防止施設及び急傾斜崩壊対策施設における山腹水路工に適用する。

### 2. 数量算出項目

施工数量を区分ごとに算出する。

### 3. 区分

区分は、規格、掘削断面積、内空積、製品質量とする。

#### (1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	3次元モデル	属性情報					
			規格	掘削断面	内空積	製品質量	単位	数量
山腹U形側溝	B	○	○	—	—	m		
山腹コルゲートフリューム	B	○	○	—	—	m		
山腹U形側溝明暗渠	B	○	○	—	—	m		
山腹コルゲートフリューム明暗渠	B	○	○	—	—	m		
集水柵	B	○	—	○	—	基		
プレキャスト集水柵	B	○	—	—	○	基		

3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

#### (2) 掘削断面積、内空積、製品質量

掘削断面積、内空積、製品質量による区分は、以下によるものとする。

掘削断面積	—	0.5 m <sup>2</sup> 以下
	—	0.5 m <sup>2</sup> を超え1.0 m <sup>2</sup> 以下
	—	1.0 m <sup>2</sup> を超え2.0 m <sup>2</sup> 以下
	—	2.0 m <sup>2</sup> を超え3.0 m <sup>2</sup> 以下
	—	3.0 m <sup>2</sup> を超え4.0 m <sup>2</sup> 以下
内空積	—	0.4 m <sup>3</sup> 以下
	—	0.4 m <sup>3</sup> を超え0.8 m <sup>3</sup> 以下
	—	0.8 m <sup>3</sup> を超え1.0 m <sup>3</sup> 以下
製品質量	—	150 kgを超え500 kg以下
	—	500 kgを超え1,000 kg以下
	—	1,000 kgを超え1,500 kg以下
	—	1,500 kgを超え1,700 kg以下

#### 4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。

(1) 各項目に必要な応じて、下記の項目を算出する。

(10mもしくは1基当り)

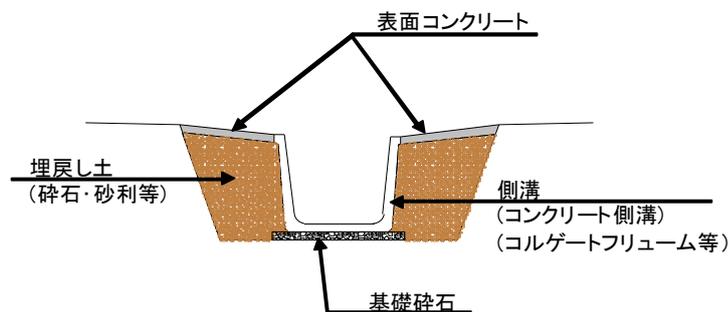
項目	区分	3次元モデル	属性情報			
			規格	単位	数量	備考
生コンクリート	A	○	○	m <sup>3</sup>		
アスファルト	B	○	○	t		
砕石	A	○	○	m <sup>3</sup>		
遮水シート	B	○	○	m <sup>2</sup>		
吸出防止材	B	○	○	m <sup>2</sup>		

3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

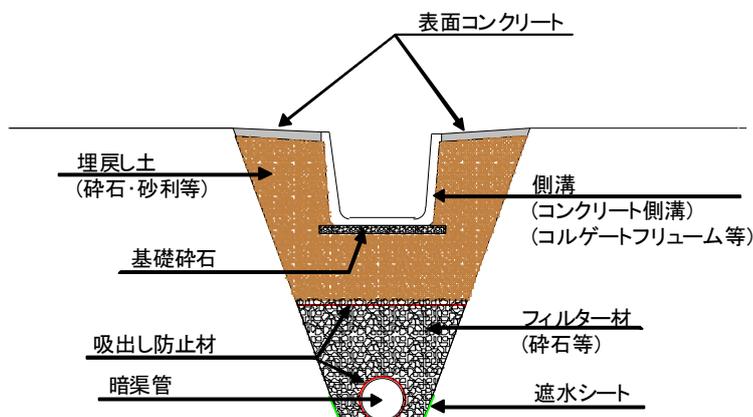
(2) 上表の各項目の規格区分は、使用材料ごとに算出する。

#### 5. 参考図（地すべり防止工（山腹水路工）構造概念図）

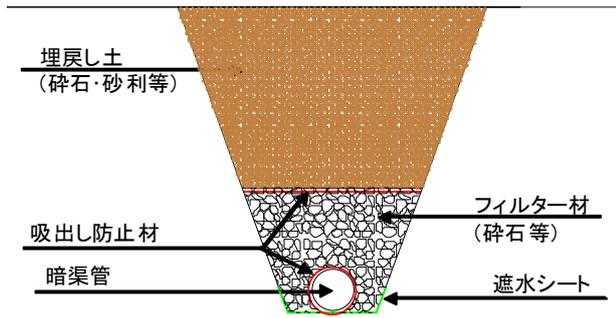
(1) 山腹集水路・排水路



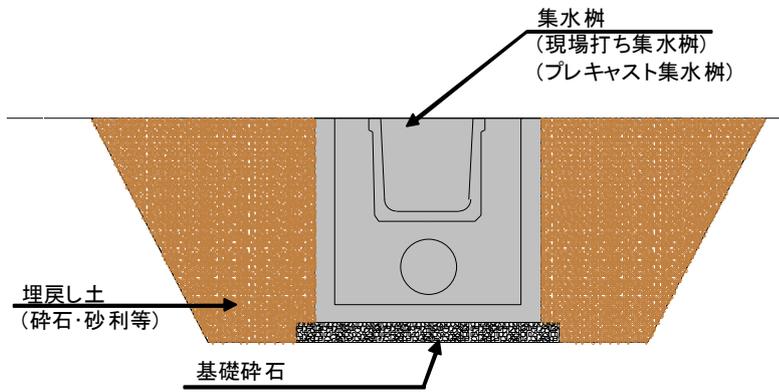
(2) 山腹明暗渠



(3) 山腹暗渠



(4) 集水樹



## 6.4 かご工(斜面对策)

### 1. 適用

地すべり防止施設及び急傾斜崩壊対策施設の施工における、ふとんかごの設置に適用する。

### 2. 数量算出項目

ふとんかごの施工延長を区分ごとに算出する。

### 3. 区分

区分は、規格とする。

#### (1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	3次元モデル	属性情報			
			規格	単位	数量	備考
ふとんかご		B	○	m		
吸出し防止材		B	○	m <sup>2</sup>		必要な場合別途計上

3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

#### (2) 規格区分

ふとんかごの規格ごとに区分して算出する。

ふとんかごの規格	—	高さ(D) = 40 cm	幅 (B) = 120 cm
	—	高さ(D) = 50 cm	幅 (B) = 120 cm
	—	高さ(D) = 50 cm	幅 (B) = 200 cm
	—	高さ(D) = 60 cm	幅 (B) = 120 cm
	—	高さ(D) = 100 cm	幅 (B) = 120 cm
	—	高さ(D) = 100 cm	幅 (B) = 200 cm

### 4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編(共通編)1章基本事項」による。

### 5. 参考図

